小中一貫移行に難問　週末の校庭使用めぐり支障　奈良市富雄

2008.7.12 02:29

奈良市が先駆的に進めている市立小・中学校の一貫教育移行をめぐり、難問が浮上している。富雄第3小学校（同市帝塚山南）に中学校を増設する形で開校を目指す富雄第3小中学校（仮称）について、週末に同小グラウンドで活動しているスポーツ少年団「富雄第3フットボールクラブ」の運営者らが、「移行後は中学校のクラブ活動が優先され、活動ができなくなる」と不安の声を上げている。同チームは近く、藤原昭市長あてに請願署名を提出する予定で、市側は学校教育と社会教育のはざまで難しい調整を迫られそうだ。

同市は平成16年、国から小中一貫教育特区に認定され、17年度には隣接する小中学校を一体化させた市立田原小中学校が開校。今年度は市内5地区の小・中学校を新たに小中一貫教育のパイロット校に指定した。このうち、小学校敷地内に中学校の施設を増設して開校する予定の富雄第3小中学校は、「新設一体型」のモデルケースに位置づけられている。

一方、富雄第3小校区内の住民らで運営する同チームは約15年前に創設され、毎年児童60～80人が所属。同小グラウンドを毎週土曜日に終日使って活動しており、市サッカー協会の少年向け大会の試合会場となることもあるという。

ところが、市教委は5月に開いた地元説明会で、グラウンド使用は新設中学校のクラブ活動を優先させる考えを提示。これに対し、同チーム側は「通常活動に加え、大会の開催などにも支障が出る可能性がある」と懸念を示し、6月からグラウンド確保に向けた署名活動を開始。これまでに約5000人分が集まり、週明けにも市側に提出することにしている。

市教委は、今年度中に施設増築や運動場の整備などについて具体案を協議し、21年度に設計委託、22年度に工事を行い、23年度の開校を目指している。今月9日には地域住民や保護者、学校関係者らでつくる小中一貫教育推進協議会の初会合も行われ、グラウンド使用の問題も同協議会などで話し合われる見通しだ。

市教委は「学校活動を優先したいが、スポーツ団体がまったく利用できないわけではなく、今後協議していく。実績も考慮したい」。一方、同チーム指導者の宮本忠依さん（45）は、小中一貫教育移行に理解を示しつつ、「頑張っている子供たちがグラウンドを使えるよう、何とか配慮してほしい」としている。

Copyright 2008 The Sankei Shimbun & Sankei Digital

© 2008 Microsoft | Microsoft